

No. 1131

島根ばやし

— 東京・足立 —

東京、足立区島根町にある鷲神社の「島根ばやし」は祭を控えて連夜の練習が続いている。「島根ばやし」はここ数年、後継ぎ難で絶滅寸前にあったが島根町会あげての新人さがしでやっと見透しがついた。後継者は順調に育ち今年の祭で初舞台を踏むことになった。

鷲神社は歴史も古く700年の伝統を持つ神社である。「島根ばやし」はこの神社に江戸時代より伝えられているものである。祭を明日に神社は御輿の用意、幟の棒立てなど準備に大わらわ。

「島根ばやし」の初舞台に使われる山車も蔵から出される。8月末に「島根ばやし保存会」も結成され、準備に汗を流す熟練者の表情も例年になく明るい。

新人募集で今年から初めて打ち破られた“女人禁制”で小学校2年生の馬場真貴子ちゃんをはじめ11人の女性も参加して明日の初舞台を前に最後の仕上げ。指導の声にも一段と熱が入り新人たちのバチさばきは真剣そのもの。

新人の練習はまだ終らない。神社の練習の後、思い思いの家に3、4人ずつ集まり、古タイヤや、たるを利用して、テープに吹き込んだ、ベテランの笛や太鼓に合わせて夜の更けるまで続く。今日はいよいよ祭の日、新人たちにとっては晴れの初舞台どの顔も緊張の中に充実感が漂っている。

山車と御輿がメインストリートに繰り出すと、祭は最高潮。「神田ばやし」の流れを吸み、小太鼓2、大太鼓1、横笛1で構成され、江戸時代の素朴な表現を伝えているこの「島根ばやし」はこうした地道な人々によって後世に受け継がれて行くのである。

老人劇団

「いき」と「きっぷ」で名をはせた江戸っ子の町、港区本芝、そこに平均年齢六十才という演劇同好会がある。与三郎を演じる座長の馬橋さん(63才)はレストランに勤めるサラリーマン、お富さん役の上市さん(81才)は飲食店経営、「生まれながら役者になろうと思ってました」と気は若い。幕間を軽妙な話術と踊りでつなぐ長谷さん(70才)は、寿司屋の御主人、その他レギュラーメンバーは6人、皆年期に加えて芸の虫ぞろい。もっぱら老人施設で公演、その回数は280回を超える。全員手弁当で、今日も老人劇団はお年寄りに楽しみを分けてあげようと、施設慰問の旅に出る。